

短 歌

【小学1年生・2年生】

特 選 ころころとおちたどんぐりひろったよ

トトロみたいにうえてみたいな

城南小学校1年 前田 茉帆侶

(評) ころころと落ちたどんぐりを手にしたとき、ふとトトロを思いだし、サツキとメイのようにうえてみたいと思ったのでしよう。小さな手にたいせつそうに持っているどんぐりも目にうかびます。ほほえましいよいうたです。

(彦根文芸協会 森 典子)

準特選 げんかんでえらぶマスクはお気に入り

今日も元気にいってきます

城南小学校2年 小菅 紬生

(評) しんがた 新型コロナウイルスの感染が広がって三年目。マスク生活もふつうになつてきました。お気に入りのマスクでより元気をもらい、はつらつとげんかんを出て行くようすがよくわかり、よい作品です。お気に入りのマスクはママの手作り？それとも好きなキャラクターかな？

(彦根文芸協会 森 典子)

佳 作 うんどう会リレーが二いでくやしかった

でも来年はまける気しないぞ

城南小学校2年 栗本 桜奈

入 選 さいごまであそびつくしたなつ休み

らい年こそはいっぱくりよう

城西小学校2年 徳永 尊

【小学3年生・4年生】

特選 お月見で月見だんごをみていたら

こっちもみなよと月のうさが

城北小学校4年 上原 柊二

(評) お月見で、お月さまよりおいしそうなおだんごの方が気になり見ていた作者。

すると月のうさが「お月見だよ、こっちも見てね。」と言っているおもしろい歌ですね。いつまでもお月さまにはうさがすんでいると思いたいものです。

(彦根文芸協会 森 典子)

特選 手を挙げてつま先立つも届かない

黄色^{こがねいろ}した祖父のヒマワリ

城北小学校4年 木原 寧音

(評) つまさき立ちいっばいに手を挙げて届かない大きなヒマワリ。夏の太陽にキラ光つてもきれいなヒマワリ。そのヒマワリは大好きなおじいちゃん^{おじいちゃん}が育てた花。リズム良くヒマワリをじょうずに歌にできたと思います。

(彦根文芸協会 森 典子)

準特選 たいそうでばくてんれん習こわいけど

がんばれじぶんぜったいできる

金城小学校4年 岡田 楓花

(評) ばくてんはこわいけど、ぜったいできるという強い意志を感じます。がんばれと自分をはげましています。これからいろんなことがあるでしょう。作者はそのたびにがんばれ、ぜったいできると乗りきっていくことでしょう。

(彦根文芸協会 森 典子)

準特選 ソーランでみんなそろうとかっこいい

おうちのひとにせいかをはつき

金城小学校4年 前田 茉里奈

(評) いつしようにけんめいにみんなそろうまで練習したソーラン。今日はお父さんやお母さんたちにかっこいいソーランを見てもらう日。いきこむ作者の気持ちが伝わってきます。きつと大きな拍手に包まれたことでしょう。

(彦根文芸協会 森 典子)

準特選 帰ったら子犬とおちばがおかえりと

きゅうにやるきがみなぎってきた

金城小学校3年 土橋 奈夏

(評) 家に帰ったらかわいい子犬が出迎えてくれ、落ち葉までも「おかえり」と言ってくれている。家に着きほっとしているようすが目に浮かびます。はげまされてやる気もわいてきたんですね。家は心と体を休めるところです。

(彦根文芸協会 森 典子)

佳 作 キーパーでせきにんかんとプレッシャー

ぜったいとめないといまPKだ

金城小学校4年 堀部 晃史

佳 作 ともだちとアジをとったよ十二ひき

にがしてあげるみじかいのち

金城小学校4年 森本 夢叶

佳 作 やまのこのウオークラリーきびしいが

みんなとともにテッペンめざす

金城小学校4年 望月 敢太

佳 作 ひぐらしのカウントダウンはじまって

小さな秋をひとつ見つける

高宮小学校4年 堀田 悠介

佳 作 虫見つけひめいをあげるお母さん

ぼくが今すぐやっつけに行く

平田小学校4年 平石 優樹

佳 作 夕ぐれに夕やけ雲から見えたのは

真っ赤に光るきれいな夕日

城北小学校3年 霜越 芽歩

入 選 こうえんできれいな花を見つけたよ

何の花かな調べてみたい

金城小学校4年 小林 妃奈

入 選 やまのこでウオークラリーともだちと

たいへんだったきゅうなさかみち

金城小学校4年 西川 臣

入 選 秋だけどはつきりしない気温の差

あつ着かうす着なやむ毎朝

平田小学校4年 圓城 結梨奈

入 選 ありの列がんばっているなぼくらにも

がんばれるんださあやってみよう

平田小学校3年 高橋 治太郎

入 選 楽しいぞ休むみんな待ってるぞ

それはそれはなウオークラリー

金城小学校4年 片山 惺志瑛

入 選 きゅうしよくであげパンでたようれしいな

きなことさとうあまくておいしい

金城小学校4年 外海 龍輝

入 選 おつきみでだんごをたべてつきみると

うさぎがいるよなぜだろう

金城小学校4年 豊田 夢來

入 選 やまの子でウオークラリー楽しいな

がけやさかみちぜんいんゴール

金城小学校4年 吉田 大真

入 選 やきいもは中が黄色でいい色だ

食べるとホクホクにっこりえ顔

城北小学校4年 奥川 裕菜

入 選 あめの日は少しさみしいときもある

ともだちいればこころは晴れる

金城小学校4年 福井 智奈津



【小学5年生・6年生】

特 選 運動会いきびったりのバトンパス

一位でわたしたししょうりのバトン

佐和山小学校5年 伊賀並 昇太

(評) 運動会で最も力を入れてがんばったのはリレーでしょう。何がなんでも思い出深いものにして、六年生になりたかったのでしょうか。下級生も喜んでいましょう。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

特 選 ランドセル毎日私が登校すると

教科書たちがおどってジャンプ

稲枝東小学校6年 平木 沙歩

(評) 発想がとてもおもしろいです。作者が軽やかな足取りで歩くので背中のランドセルの中の教科書たちも合わせておどってジャンプ。朝から楽しく学校に向かう様子が目に浮かびます。あなたと登校する登校班のみんなも楽しい気分で学校に行けそうです。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

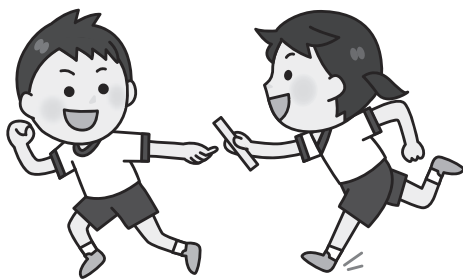
特 選 たいせつにコロナウイルスたいさくを

みんなでもまろうじぶんのいのち

稲枝東小学校6年 西津 勇音

(評) コロナウイルスにかからないように、手洗い、マスク、外気の流れ、手指の消毒用アルコール、人がかたまり密にならない、大声で話さないなど注意を守り行動しようという気持ちが伝わってきます。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)



準特選 秋を探しに小さな一歩ふみだして

夕日に染まった紅葉を見る

稲枝東小学校6年 金築 真帆

(評) 季節の変化を見ようと屋外に出ると、景色はもう秋の色になっていた。夕日に染まった紅葉の美しさに見とれ、作者はこの一首を作ったのでしよう。歌の題材は身近なところにあります。これからその着眼点で創作に励んでください。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 ほろほろと頬を伝って流れてく

生暖かい悲しみの形

稲枝東小学校6年 生子 咲

(評) 何があったのでしょうか。深い悲しみを感じます。「涙」という言葉を使わずに、悲しみの中、涙を流す様子を想像させる表現が見事です。そしてただ悲しみに打ちひしがれているだけでなく、そこから進もうとする力強さも感じました。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 いと子とねおばあちゃん家でお泊まりだ

ねるふりしてさまだしやべる

稲枝東小学校6年 山本 実千留

(評) いとこどうしでおばあちゃんの家でお泊まり。電気を消して寝るふりをしながらも久しぶりに会話が尽きないのでしよう。おばあちゃんも「もう寝なさい」とは言わずその様子を見守っている。何ともほほえましい家族の風景を切り取りました。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 天の川静かに光る夜の空

横切った風短冊ゆらす

龜山小学校6年 松崎 初月

(評) 白い川のようにみえる星のむれ、天の川のことです。笹につるした短冊がゆらゆら。風が短冊をゆらしたので夜空を横切ったかのように見えた情景がよくわかります。短冊には何を願ったのでしょうか。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 八月の立秋残暑秋の朝

かりがね寒し秋の初雪

佐和山小学校5年 市田 宗資

(評) 八月と聞くと夏ですが、暦の上では「立秋」です。残暑の秋の朝は雁の鳴き声かしています。彦根の気象台始まって以来の寒い年だと聞きました。「秋の初雪」が利いています。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

佳 作 秋になりさつまいもほりほくほくだ

おいしいおやつみんなのえがお

佐和山小学校5年 森岡 奏音

佳 作 もう秋だ真っ赤な色のひがんばな

たくさんさいたとでもきれいだ

佐和山小学校5年 瀬川 汐依

佳 作 夏休みコロナで自粛楽しくない

ゲームテレビで頭いたいわ

稲枝北小学校6年 徳田 巧磨

佳 作 寒くなりおでんの季節うれしいな

家族みんなでとてもおいしい

平田小学校5年 谷沢 翔

佳 作 秋の虫草むらでなくきれいな音

満月の下おんがくかいだ

佐和山小学校5年 川畑 玲奈

佳 作 読書は私をいやす道具だよ

うるさい時はよくよめないね

稲枝北小学校6年 柿添 夏稀

佳 作 先生はいつも下校についてくる

みんなルンルン楽しい時

稲枝北小学校6年 山本 彩華



入選 食の秋くりをひとつたべればな

ほかのきせつじゃあじわえないおいしさの味

佐和山小学校5年 勝江 真緒

入選 あきこれどまだかんじないあきなのか

きおんはげしいひになった

平田小学校6年 山川 嘉翔

入選 落ち葉から秋の虫たち顔を出し

音楽会でさわがしい夜

平田小学校6年 白井 彩香

入選 寒露すぎもみじが散った木々達が

真っ赤にそまった川をながめる

平田小学校6年 北川 愛唯

入選 凧や冬の始まり感じとり

風にのって秋が去りゆく

佐和山小学校5年 有馬 隼人

入選 涼しい秋コスモスを見ていやされる

秋の終わりが見えそうだった

佐和山小学校5年 西村 葉奈

入選 すながちるリレーは楽しいバトンパス

みんなのために一位をめぎす

佐和山小学校5年 矢吹 康祐

入選 秋晴の空のもとにて深呼吸

力をこめてバトンをにぎる

佐和山小学校5年 長澤 未有

入選 やきいもはほかほかしててあったかい

さむいふゆの日食べたくなるね

佐和山小学校5年 清水 美咲

入選 冬の空いつもとちがうけしきだな

ふしぎなきもちおちつく空だ

佐和山小学校5年 清水 美来

入選 草木かれ白い雪ふる冬の空

雪がつもって雪遊びする

佐和山小学校5年 小西 貴尋

入選 さくらちり夏がはじまり夏の夜

夢の中では楽しかったな

佐和山小学校5年 藤田 哲生

入 選 空高くジップラインで見るけしき

秋の風ふくうっとりしちゃう

佐和山小学校5年 堤 祐俐菜

入 選 みんなの気持ちが一つになり

バトンをつなごう一等賞

平田小学校5年 森谷 心結

入 選 天気雨晴れていたからかさわすれ

ぬれてしまってこおりそうだよ

佐和山小学校5年 而川 花奈

入 選 秋の日の寒い北風思ひ出す

春の時の温かい風

佐和山小学校5年 小川 康希

入 選 どんぐりは秋のおたからツヤツヤだ

ぼうしもかぶりおしゃれしてる

佐和山小学校5年 竹田 梨央奈

入 選 梅雨の朝雨がぽつぽつふり始め

明日も雨が続くのかもね

佐和山小学校5年 村上 叶芽

入 選 たのしいがいっぱいのおつきくりごはん

いつもごはんおいしいきせつうれしいな

佐和山小学校5年 小野 千穂

入 選 野球で「ドカン」といったホームラン

カイオン残してうれしい一号

稲枝北小学校6年 柿添 康介

【中学生】

特 選 消しゴムのカスが教えてくれること

「今日も私、頑張ったなあ」

稲枝中学校2年 中川 心子

(評) いっしょうけんめい勉強した後には消しゴムのカスがたくさんあるのが目に付いたでしょう。自分をほめたくなるような気持ちを上手にまとめたのが良かった。これからも頑張ってください。

(彦根文芸協会 河分 武士)

特 選 受験生ふざけるあの子のペンだこが

私の心に火をつけたんだ

西中学校3年 渡 心美

(評) 楽しそうにふざけているようでも、あの子は家に帰ったら勉強しているのだろう。ペンだこを見て、心に火がついて自分もがんばろうと思った。「私の心に火をつけたんだ」がとても良い表現です。

(彦根文芸協会 河分 武士)

特 選 彦根市のみんなの宝彦根城

世界遺産になったらいいな

南中学校2年 若林 獅童

(評) 彦根城は大切に継承された歴史をほこる郷土の宝です。価値も高いし訪れる人も多いので、世界が認める世界遺産として認めて欲しいと願うところを短歌にしたのが良かった。

(彦根文芸協会 河分 武士)



準特選 鮮やかな落ち葉舞い散る通学路

踏み鳴らす音心が踊る

南中学校2年 二宮 楓花

(評) 鮮やかな紅葉は、やがて通学路にも舞い落ちてじゅうたんのようになり、踏みと、かさかさ・きゅつきゅつと小気味よい音がして、心が躍るといふ。情景を捉えて良い歌になりました。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 こうばしくしよっぱい味とほろ苦さ

秋の味覚のおいしいさんま

南中学校2年 青柳 權

(評) 秋の味覚、秋刀魚の味わいを細かく言葉に表わして、良い歌にまとめられました。庶民の味として豊漁になるように期待したいものです。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 コロナ禍で部活や生活制限で

気づかせられる「普通」のしあわせ

南中学校2年 佐伯 直哉

(評) コロナの感染には色々な制限に悩まされ、終息が待たれるところですが、なかなか思い通りにならないのがまどろこしいところです。普段どおり「普通」に暮らすことの幸せを改めて感じさせる歌です。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 グルグルと幼き頃のせんぷうき

「うちゅうじんかな」「うみのうずかな」

南中学校2年 夏川 侑大

(評) 幼い頃の古い扇風機が出てきたのでしょうか。動かしてみたときの感想をユーモアを交えてコミカルな表現でまとめたのが良かった。

(彦根文芸協会 河分 武士)

佳 作 秋の山耳をすませば聞こえてくる
風でゆれる紅葉の音

鳥居本中学校2年 原 大智

佳 作 夏の夜イルミネーション始まった

ほたるが飛びかう夜の川辺に

稲枝中学校2年 大橋 菜々星

佳 作 休日に一人で自主練コツコツと

振りぬくラケット私の相棒

稲枝中学校2年 辻 芽奈

佳 作 残飯はすぐに捨てられかわいそう

みんなでなくそう食品のロス

稲枝中学校2年 安居 春香

佳 作 肌寒い日が続くから冬服を

急ぎ出す母に感謝の言葉を

南中学校2年 滝本 侑希

佳 作 コロナ禍で自由にできない日々だけど

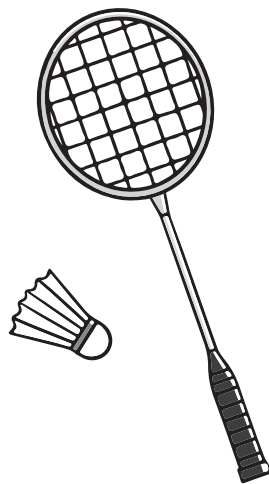
未来のために前進しよう

南中学校2年 吉野 心優

佳 作 部活動打たれ続けるその羽根は

なんかしらぬもかわいそうだな

南中学校2年 筏 啓士朗



入選 友達と川辺に寝ころび空を見る

水の音から感じてる夏

鳥居本中学校2年 前山 琉人

入選 あいさつを自分からして友達が

かえしてくれて気持ちよくなる

鳥居本中学校2年 杉本 心南

入選 さつまいもほのかにかおるいいにおい

きれいな紫けむりもくもく

稲枝中学校2年 辻 春拳

入選 帰りぎわふと目に入る白けむり

ほのかに香る秋刀魚のにおい

稲枝中学校2年 楠居 拓海

入選 焦げた葉と夕日に重なるかきの実は

真っ赤に熟して美しきかな

稲枝中学校2年 森 一姫

入選 冬休みブランコだけがゆれている

一人もいない静かな校庭

稲枝中学校2年 中村 莉々佳

入選 コンクールかがやく金賞とれたとき

練習した日々思い出となる

稲枝中学校2年 高木 美玖

入選 秋深まり辺り一面黄金色

心地よく響くコンバインの音

南中学校2年 田中 美結

入選 さつまいもくりにかぼちゃにまつたけに

全部食べたい食欲の秋

南中学校2年 小川 琴音

入選 初夏の日に遊びに行った砂浜で

心やすらぐ海の波の音

南中学校2年 杉本 悠真

入選 落ち葉踏む上着をはおり夕方の

秋の薫りを風にかけて

南中学校2年 谷口 真琴

入選 陸上はつらい時などあるけれど

そのくやしさが次につながる

南中学校2年 川口 貴斗

入選 バレー部はみんな仲良しい仲間

声かけ合ってボールをつなぐ

南中学校2年 森野 芽依

入選 サッカーは体力的にしんどいが

気持ち的には勉強がづらい

南中学校2年 北川 泰成

入選 楽しいね明るい雰囲気友達と

レッツピンポン心もつながらる

南中学校2年 本田 煌貴

【総評】

コロナ禍がなかなか収束しないこの一年でしたが、そんな中でも皆さんは元気に去年より多くの作品を出していただいたので、とてもうれしく拝見いたしました。

小学生は、低学年（特に一・二年生）の応募者が依然として少ないのは、短歌を作るのがむずかしいと思えるからかもしれません。周りの方のフォローをお願いします。高学年では、子どもらしい視点から、四季による自然の変化や学校のこと、家族のことなど、自分の「見たこと」「楽しかったこと」「頑張ったこと」など、良い短歌が多くありました。

中学生は、昨年に比べて応募者と作品が減少しました。基本に忠実で、よくまとまっている短歌が多かったのはうれしいことです。季節、部活、家族のこと、その他にも視点を考えた努力の跡が見られます。学校では先生、家庭では家族の一層のご協力をよろしく願っています。来年はもっと多数の参加と良い作品に出合えるよう期待いたします。

次に、何度も申し上げてきたことですが、短歌作りに大切なことは、以前に入賞となった作品、新聞や本に書いてあるような良い短歌を多くさん読んでください。

次に、何を詠うのか「テーマ」を考えましょう。五・七・五・七・七のリズムを大切に、なるべく多くの短歌を作ってください。その中から「これ」と思う自信のある短歌を選んで出すのが望ましいことです。

短歌は、この国に昔から脈々と引き継がれて来た歴史があります。大人になっても続けられるように、大切にしてください。

（彦根文芸協会 河分 武士）